

ウイズコロナ

新型コロナウイルス感染症対策として政府の専門家会議において「新しい生活様式」が示されました。高岡市においても当センターの関連団体の新たな取り組みが、報道各社によって紹介されました。

アレッセ高岡（男女平等推進センター活動登録団体）

オンラインで学習支援／外国人の子どもむけに講座

5/15 富山新聞記事から

外国人の子どもむけに学習支援を行うアレッセ高岡では、新型コロナウイルスで対面での指導を見合わせ、オンラインでの学習指導を始められました。

また日本の教育の仕組みや仕事、産業などを取り上げた講座を実施し、人生設計に必要な情報を伝えるとともに努力すれば希望する職業に就いたり、人生を豊かにできたりするということを実感してもらう取り組みも始められました。代表の青木さんは、「対面では参加できなかった生徒にも学習の機会を広げられる可能性がある」、「外国の子どもと一緒に良い地域社会をつくりたい」と話されていました。

ホクセイプロダクツ（高岡市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定事業所）

移動型店舗でコロナ復興

5/14 富山新聞記事から

アルミ加工製品の企画・製造販売を手掛ける商社のノウハウを活かし、移動型店舗（フードカート）を沖縄のグループ会社で製造し、外食産業の復興を支援するプロジェクトに乗りだされました。沖縄県内企業や行政と連携し、まず沖縄県内で移動型店舗を貸出し、全国展開を目指されます。またこれまで沖縄県の伝統工芸の販路開拓支援事業にも取り組まれています。社長の富田さんは、「コロナ収束後の店舗再開の力になりたい」と話されていました。

男性介護者の会「みやび」（男女平等推進センター活動登録団体）

在宅勤務と自宅での介護

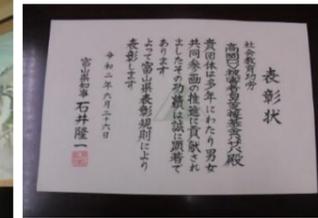
5/10 朝日新聞デジタル版から

代表の平尾 隆さんが、朝日新聞の取材を受けられました。「家族介護者は、外で働くためにデイサービスや訪問介護などを利用する。生活が介護一色ではなく、離れる時間があるからこそ長く介護が続けられる。自宅で介護しながら仕事に集中するのは難しい。自宅での仕事、介護が必要な家族から用事を頼まれるだろうし、排せつや水分補給など定期的な介助が必要ならなおさらだ。」と家族環境に合わせる必要性を訴えられました。

高岡 DV 被害者支援基金パサパ（男女平等推進センター活動登録団体） 令和2年度 富山県社会教育男女共同参画部門功労表彰

男女共同参画の推進に関する功績の積み重ねが10年以上で顕著な功績があり、他の模範となる団体として表彰されました。6月26日（金）県庁で行われた表彰式では、石川県知事から代表の向さんに表彰状が手渡されました。

向代表は、「DV被害者が自立できるための一助になればとの思いで続けてきた活動を認めていただき、大変嬉しく思います。今後も『何事も暴力で解決しない社会』を目指して、会の趣旨に賛同してくださる皆さんの力を糧に活動を続けたいと願っています。」と、喜びの言葉とこれからの一層の取り組みについて力強く語っていただきました。



【沿革】

- 2007～2008 高岡女性の会 20周年記念事業として「民でできるDV被害者支援」の取り組み
- 2008.8.18 高岡DV被害者自立支援基金設立準備関係者会議
- 2008.11.7 高岡DV被害者自立支援基金パサパ設立

【事業】

一時支援金の無利子貸付・提供、生活用品等の物資提供、制服のリユース活動、引越サポート、フリーマーケットの参加、DV被害者への同行支援、高岡市デートDV等予防啓発講座への参画 など

令和2年度 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会開催

7月6日（月）、新たなメンバーでの初めての連絡会を開催しました。25校区から男女各1名ずつ依頼されている各推進員は、今年度の取り組みや4つの部会（地域・家庭部会、教育部会、法律・職場部会、広報部会）に分かれての取り組みなどについて話し合いました。

男女平等推進センター等が実施する講座などへの積極的参加・協力や約半数の校区で開催予定のミニ地区懇談会での企画・実施など、地域での男女共同参画の推進のため事務局の男女平等・共同参画課とともに活動していきます。

男女共同参画社会とは…

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。（男女共同参画社会基本法第2条）

センターでは、男女共同参画社会の実現に向け、様々な施策・事業に取り組んでいますが、6月に発行しました「男女共同参画週間だより」において、男女共同参画社会についての表記に不足があったことから改めて記したものです。